

生存科学研究ニュース

VOL.18. NO 1

2003.7 発行

発行 財団法人 生存科学研究所

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1

電話 03-3563-3518 FAX03-3567-3608

Eメール seizon@mx1.alpha-web.ne.jp

平成14年度第2回評議員会

平成15年3月13日（木）生存科学研究所会議室において平成14年度第2回評議員会が開催された。

出席者：江見理事長、大塚副理事長、鈴木専務理事、太田、柏谷、向山、
（浅野、石井、伊藤、吉川、筑井、
中谷、藤井、村上）

議題は以下の通りであった。

1. 平成15年度事業計画について

江見理事長より資料に基づき、平成15年度事業計画案について①本財団の平成15年度予算では昨年と同様の運用収入を見込むことができたが、②法人を中心に会員を退会する動きは今後も続くと予想し、継続寄付金収入は減少を見込んだ③本年度も総支出額（当年度支出額＋次期繰越金）に占める事業費を50%以上にしたこと、④本年度は財団創設者である武見太郎没後20年に当たる年なので、活動のひとくぎりとして、学術誌『生存科学』特集号を企画したことなどが述べられた。その後、審議が行われ、その結果、事業計画書は全員一致で承認された。新規事業予算および責任者は右の通り

- | | |
|---------------------------|----------|
| 1. 自主研究事業 | 5,500千円 |
| A. 川崎病研究会 | 500千円 |
| 研究責任者：川崎 富作 | |
| B. 21世紀におけるバイオエシックスの構築研究会 | 700千円 |
| 研究責任者：大林 雅之 | |
| C. 医療システム改革の基礎研究会 | 1,200千円 |
| 研究責任者：府川 哲夫 | |
| D. 循環型社会と生存科学研究会 | 700千円 |
| 研究責任者：江見 康一 | |
| E. 武見太郎研究会 | 1,500千円 |
| 研究責任者：丸井 英二 | |
| F. 代替医療と国民医療費研究会 | 700千円 |
| 研究責任者：津谷喜一郎 | |
| G. 自主研究中長期基本構想委員会 | 200千円 |
| 研究責任者：江見 康一 | |
| 2. 共同研究事業 | 14,500千円 |
| 日本川崎病研究センター | 14,500千円 |
| 事業責任者：川崎 富作 | |
| 3. 事業活動 | 300千円 |
| 広報（生存科学研究ニュース） | 300千円 |

4. 学術研究誌発行事業 4,200千円

事業責任者：藤原 成一

調査研究予算合計 24,500千円

2. 理事の選任について

青木 清、江見 康一、大塚 正徳、
大林 雅之、小島 静二、鈴木 雪夫、
高木 廣文、津谷喜一郎、府川 哲夫、
藤原 成一、丸井 英二

の11名は留任と決定した。なお、鈴木専務理事より新規理事候補者2名には、早速就任依頼の交渉を進める事となった。

平成15年度第1回理事会

平成15年4月17日（木）生存科学研究所会議室において第1回理事会が開催された。

出席者：江見、大塚、鈴木、小島、高木、
中谷、中山、府川、丸井
（青木、大林、津谷、藤原）

議題は以下の通りであった。

1. 理事長および執行体制の決定

新執行部には、理事長江見康一、副理事長大塚正徳、専務理事鈴木雪夫各氏、また常務理事には小島静二、府川哲夫、藤原成一、丸井英二の各氏の留任が決定した。

2. 評議員の選任について

浅野茂隆、石井威望、伊藤正男、
江橋節郎、香川保一、粕谷 豊、
吉川 暉、坂上正道、清水 博、
高瀬 浄、筑井甚吉、藤井正雄
向山定孝、村上陽一郎 の各氏は留任と決定した。また、前年度まで理事であった梅園忠、川崎富作氏、および新たに小泉英明氏が執行部より推薦され、全員一致で了承された。

平成15年度役員は以下の通りです。

理事長

江見 康一 一橋大学名誉教授・帝京大学名誉教授

副理事長

大塚 正徳 東京医科歯科大学名誉教授・日本学士院会員

専務理事

鈴木 雪夫 東京大学名誉教授・多摩大学名誉教授

常務理事

小島 静二 小島歯科クリニック院長

府川 哲夫 国立社会保障・人口問題研究所部長

藤原 成一 日本大学芸術学部教授

丸井 英二 順天堂大学医学部教授

理事

青木 清 上智大学名誉教授・日本生命倫理学会代表理事

大林 雅之 川崎医療福祉大学医療福祉学部教授

高木 廣文 新潟大学医学部教授

津谷喜一郎 東京大学大学院薬学系研究科・医薬経済学客員教授

中谷 瑾子 弁護士・慶應義塾大学名誉教授・法学博士

中山 茂 神奈川大学名誉教授

監事

大内 幸夫 経済評論家

小川 春男 亜細亜大学国際関係学部長

評議員

浅野 茂隆 東京大学医科学研究所附属病院院長・教授・同先端医療研究センター長

石井 威望 東京大学名誉教授・慶応義塾
大学客員教授

伊藤 正男 理化学研究所脳科学総合研究
センター特別顧問・東京大学
名誉教授

梅園 忠 日本医師会理事・千葉県医師
会副会長・梅園内科医院院長

江橋 節郎 東京大学名誉教授・岡崎国立
共同研究機構生理学研究所名
誉教授

太田 幹二 科研製薬(株)相談役

香川 保一 弁護士・元最高裁判所判事

粕谷 豊 東京大学名誉教授

川崎 富作 日本川崎病研究センター所長
久留米大学医学部客員教授

吉川 暉 (社)大分県医師会顧問
(財)大分県地域成人病検診セン
ター理事長

小泉 英明 (株)日立製作所参与・基礎研究
所主管研究長

坂上 正道 人間総合科学大学学長・北里
大学名誉教授

清水 博 金沢工業大学教授・場の研究
所所長・東京大学名誉教授

高瀬 浄 秀明大学学長・同大学特化教授

田中 慶司 厚生労働省技術総括審議官

筑井 甚吉 大阪大学名誉教授

藤井 正雄 大正大学文学部教授・日本生
命倫理学会常務理事

向山 定孝 三井業際研究所顧問

村上陽一郎 国際基督教大学大学院教授・
東京大学名誉教

第4回 「代替医療と国民医療費」研究会

表記委員会が、平成15年4月22日(火)18:00から開催された。日本漢方生薬製剤協会・生薬委員会の委員長・伊藤親氏に「漢方薬・生薬業界の現状」というテーマで講演して頂いた。

【原産地】現在、日本で、生薬として常時使用されているものは約500種、実際に扱われているものは約1000種にも及んでおり、その7割近くは外国産(主に中国)に依存している。日本産の現在の主な生薬は、インチンコウ、オウレン、サイコ、シャクヤク、トウキ、チンピ、ニンジン、ボウイの8種である。生薬の場合は、加工調製により品質が左右され、重労働であり、それ故、栽培の後継者が不足し、日本産生薬は衰退傾向である。中国は栽培よりも野生品が主であり、採取による自然破壊も問題となってきている。漢方生薬業界には農協のような組織が存在しないので、国家的政策は浸透しにくい。

【流通経路】流通過程には、(1)問屋指導型、(2)製薬会社指導型、があるが、最終的には加工されるなどして病院・診療所・薬局等に供給される。薬価基準収載されている生薬242品目以外は、基本的に相場制をとり、実勢価格に準じる。

【食薬区分】無承認無許可医薬品の指導取崩りについて(昭和46年局長通知)において、「食薬区分」は1-a専ら医薬品以下1-b~2-cの6分類であったが、改正により、平成13年3月27日に2分類(専ら医薬品または食品)に変更された。これまでの6分類という細かい分類をお

こなっても、微妙な差異しか存在せず、実情にそぐわない、といった改正理由が考えられるが、今回の改正により、専ら医薬品に指定されたものは医薬品の承認を受けないと他に利用できないなどの不都合があり、また、施行されたのが4日後の4月1日であったこともあり、業界ではかなりの混乱を生じた。

【市場の規模】漢方薬・生薬の市場は全体として、1992年のピーク時で約1,800億円、現在は約1,000億円と減少傾向にある。薬事工業生産動態統計からみると、漢方製剤は全体の9割を占め、そのうち、医療用医薬品が8割を

占めている。ここで、医療用については保険薬価、一般用と配置薬については卸での価格が用いられる。

「漢方製剤」とは、古典などにに基づき、2種類以上の生薬から製造されたもの、「生薬」とはいわゆる「刻み」のこと。「その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品」とは「生薬製剤」のことである。また、「医療用」とは医師や歯科医師により処方されるもの、「一般用」とは効能・効果、用法・用量が表示され、薬局で売られるもの、「配置用」とはいわゆる富山の薬売りなどである。生薬（刻み）はウェイトが低いのだが、一部、薬価の減少による逆鞘の問題もある。例えば、山椒においては薬価と相場に2倍以上の価格差がある。取引が行われると、その負担は企業もしくは病院が強いられることになるが、企業が負担する場合、逆鞘により利益が得られない部分を補うため、利益が得られるそのほかの生薬に頼ることになる。

(津谷喜一郎、菊田健太郎)